

事業所名

pispisキッズ札幌中央

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

2 月

28 日

法人（事業所）理念	『子どもたちが人生の選択肢を広げ、自らの力で幸せな未来を創り出せるよう共に歩み続けます。』を信念としています。児童福祉業界では、DX（デジタルトランスフォーメーション）が遅れていると言われています。業務効率化や多角的なアイデア創出が必要であるにもかかわらず、報告書作成・計画書作成などに膨大な時間がかかり、本来注力すべき“子どもとの時間”が削られてしまう課題があります。そこでpispisキッズでは、AIを積極的に活用し、書類作成や情報整理を効率化することで、属人的な療育を減らし、誰でも一定の質を担保できる仕組みをつくります。その結果、子どもたちと向き合う時間を増やし“子どもたちの未来を切り拓く支援に注力する”という取り組みを進めています。					
支援方針	pispisキッズは、発達に課題を抱える未就学児（0歳から6歳）を対象とした支援を通じ、子どもの成長を支え、家庭や地域社会での生活の質を向上させます。個々の子どもの発達特性やニーズに応じた支援を提供し、可能性を最大限に引き出すことを目指します。子どもの状況に合わせて個別支援・集団支援・専門的支援・日常生活のサポート等の発達支援を行うとともに、社会適応の促進・保護者支援・地域社会との連携も展開していきます。					
営業時間	9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や排泄の場面で、行程を視覚的にわかりやすく示す（ピクチャーカードや手順表の活用）。 ・手洗いや歯みがきを歌や絵本を使って楽しく学ぶ時間を設ける。 ・着脱を少しずつ段階に分けて支援し、自分でできた時は具体的にほめる。 ・遊ぶ前や出かける前にルールや注意点を簡単に共有し、確認する 				
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・室内外での遊びの中に、走る・跳ねる・投げる・登るなどの全身運動を取り入れる。 ・粘土遊び、紐通し、指先遊びなどで、手先の器用さを養う。 ・感覚遊び（スライム、砂、水、感触が異なる素材など）を用いて、五感を刺激する ・個々の発達段階に合わせ、成功しやすい難易度に調整（道具のサイズや材質を工夫する等）。 				
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚刺激が強すぎる環境を調整（照明や掲示物を必要最低限にするなど）。 ・子どもが落ち着いて集中できるよう、空間を仕切ったり音を軽減したりする環境づくりを工夫。 ・子どもが関心を持ちやすい素材やおもちゃを用意し、少しずつ新しい遊びを提案する 				
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードや写真を用いたやりとりで、言葉とイメージを結びつけやすくする。 ・1回の指示を短くシンプルにし、動作を視覚やジェスチャーで補足する。 ・子どもが言葉を理解しやすいよう、必要なキーワードだけをゆっくりハッキリ伝える。 ・読み聞かせの後に簡単な質問をしたり、子どもに絵を指さしてもらったりして会話を促す。 				
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会や帰りの会など、見通しが持てるように写真やイラストで視覚支援を行う。 ・レク活動等を行なう際に、わかりやすい形で役割を示し、成功体験を積ませる。 ・子どもの理解度に合わせ、ルールを簡潔にまとめたカードを提示する。 ・「今は〇〇君が使っているから、次に使おう」というように順番を視覚的に提示（順番表や砂時計の活用）。 ・トラブルが起きた際には、感情の整理をサポート（気持ちを言葉で表す、落ち着ける場所の提供など）。 				
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の特性や診断に関する説明・情報提供を行なう。 ・保育園や小学校など、地域資源の紹介を行なう。 ・家庭での関わり方・問題行動等の対応や子供への声掛け。 			移行支援		<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所、保育所・幼稚園（または認定こども園）、自治体の相談窓口（市区町村の障害福祉担当や教育委員会）などと連携し、就学前段階で子どもの発達状況や特性を共有。必要に応じて「就学相談」や「就学前教育相談」を受け、通常学級か特別支援学級か、または特別支援学校を選ぶかなど、就学先の検討をサポートする。
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所、保育所・幼稚園（または認定こども園）、自治体の相談窓口（市区町村の障害福祉担当や教育委員会）などと連携し、子どもの発達状況や日々の様子を互いに共有し合い、子どもの療育の質の向上に繋げる。 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・AI活用により、AIが提案する新しいアイデアや言い回しから、療育の幅が広がったり、職員が自分だけでは気づけなかった着眼点を得られる。 ・定型的な事務作業をAIがサポートしてくれることで、pispisが本来大切にしている「子どもたちの未来を見据えた支援」に注力可能になる。
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキングイベント ・季節に合わせた製作 ・動物園や科学館等の博物館相当施設や社会教育施設に訪問 					